

「大好きな町、油谷町」

向津具小学校六年 東野智治



油谷町、それはぼくの住んでいる町。油谷湾と日本海に面した町、海は季節によって、色々な色に変わってとってもきれいだ。

ぼくは、よく海に行く。石なげをしたり、大きな声で海に向かって歌をうたったり、いやな事があると大きな声でさげふ。この海を見ていると何もかも忘れて、ぼくの心もなごむ。空気も都会のはいりかすのにおいなんかじゃなく、海の汐のかおりがする。そして、ゆう大な山々、それらは、ぼくたちにとっても素晴らしい、心が安らぐ最大の場所だ。

油谷町には、たくさん自然があつて、名所も数多くある。中でも楊貴妃の墓は、休日になるとたくさん観光客の人達がやって来る。最近道路が整備されたので、いい事だと思います。ぼくの住んでいる所は、大浦地区です。大浦も道路が良くなつてきているのですが、久津方面からくる道が一本しかないのです。もし災害で、道がくずれたり、山がくずれて道がふさがつた時には、どうするのかと、学校の帰りに、良く思うことがある。

先日、母にぼくが思っていることを話すと、母は、

「二十年前位前に、向徳寺の下の道路が通れなくなつた事があつて歩いてまわり道をして仕事に行った事があるよ。」

と、おしえてくれた。最近、じしんやつなみが多いのもしそうなつた時、もう一本大浦の上の方にも通る道があればとても安心できるし、火事の時にうまくたつたのになあと思ふ。

ぼくの大好きな町が少しづつよくなつて、住みやすいみんなの町であつてほしい。

そして、自然をあまりはかせず、自然ができるだけ多く残るように、いろいろな木や花を植え、油谷町のために自然をどんどん増やすことも必要だと思ふ。

また今、油谷町では若い人達が都会へと移り住んでいる。その結果、お年寄りばかりになり、活気がなくなりつつあるので、若者に働き場所があることが必要だと思ふ。

ぼくも、将来自分に向いた仕事があれば、油谷町にのこつて働きたいと思ふ。

ぼくは、この町が大好きだから。

